

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年 9月 27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493600039		
法人名	特定非営利活動法人 匠の家		
事業所名	ケアホーム匠		
所在地	広島県安芸高田市吉田町常友486番地 (電話) 0826-47-1013		
自己評価作成日	平成30年8月28日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3493600039-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3493600039-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年9月13日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>事業所理念である「誰でも集えるホーム」「その人らしさを大切に」「明るい笑顔と挨拶」による利用者を第一に考えるケアを心がけている。</p> <p>利用者のADL低下を少しでも防ぐために、月2回理学療法士に指導を受けながら職員が週2回程度のリハビリをおこなっている。</p> <p>地域との連携も進んできてると感じてはいるが、今後は防災面でのより一層の充実を図るよう更なる関係作りを重視している。</p> <p>昨年度から始めた農作業も少しずつ軌道に乗り、参加される利用者も自分の仕事として生き甲斐を持って取り組んでおられる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>開所11年目の事業所で、地域交流も盛んに行われており、秋祭り、八朔祭り等行事の際は地域にチラシを配り、多くの住民の参加があり、また、地区行事、清掃活動に出たりする等地域に根付いている。事業所内だけでなく、三次の畑にも行き、野菜づくりを利用者と職員が一緒に行い、育て収穫し食べることで、「喜び」、「楽しみ」を味わうことができている。理学療法士の指導、プログラム作成により、週2回職員がリハビリを行っており、立ち上がり、歩行が楽にできるようになった等ADLが向上し、効果をあげている。職員の研修も計画的に行われており、サービスの質の向上に取り組み、理念に基づき、個々の利用者の意向、習慣に合わせた温かみのある支援が実践できている。利用者のケース担当制を引いており、モニタリング、家族への手紙を書くなど責任を持って行っており、本人の状況を細かく把握し、日頃の関わりに活かしている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	事業所玄関正面や事務所に理念を掲げ朝礼で唱和する事で、職員の意識も高まり、来所された方には気持ちの良い挨拶を心がけている。	利用者、来客者に笑顔で挨拶を行う事や本人の意向に合わせて食事、入浴の時間をずらすこともあり、事業所理念を各職員が周知徹底し、日々実践している。事業計画は職員会議などで職員の見解を取り入れ作り上げており、また、各職員の年間の個人目標を定め、チーフ職員との振り返りも3、6ヶ月で行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の一斉掃除に努めて参加している。自治会の回覧板も回してもらい、事務所の行事の際には、地域に声掛けするように努めている。今年の夏はご近所の方からのご好意で梅をいただき、利用者と一緒に挽ぎに行き、事業所で梅を漬けている。	事業所行事の際は地区にチラシを配り広く呼びかけており、八朔狩りには参加が大勢あり、地域の方も楽しみとして定着している。生け花、お茶教室を定期的開催し、ボランティアの方がこられる。各地区への祭りの参加や近所の方から野菜などのおすそ分けもあり、地域と良好な関係が構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	キャラバンメイトの手伝いには可能な限り参加している。事業所の行事に合わせて介護相談会を計画したが、行事中止の為にまだ実行できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議は地域やご家族等広く声掛けしているが、参加者は限られてしまう。会議での意見は事業所運営に活かし、議事録は全家族に郵送している。今年度から身体拘束予防・虐待廃止委員会を運営推進会議で兼務することとなった。	運営推進会議には併設の小規模多機能と合同で開催している。スライドショーで事業所の日頃の様子や紹介や、事業概要、活動報告、利用者状況等を議題に行っている。会議から出た意見で、有償での受診の付き添いや、他地区へのとんなどに参加した例があり、日頃の運営に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当者は運営推進会議には毎回出席いただいている。事務手続きの際には、窓口へ行きコミュニケーションをとるように心がけている。	健康長寿課、地域包括センターの職員の運営推進会議への出席があり、事業所の状況、内容は密に伝えることができおり、相談もしやすい関係がとれている。要請により、認知症リーダー研修の講師やキャラバンメイト、地域フェスタの手伝いなど、幅広く参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>センサーマット等を使用し、身体拘束をしないよう取り組んでいる。また内外研修の機会にはできるだけ参加するよう努めている。</p>	<p>ここ何年も身体拘束の事例はなく、定期的な研修の開催や職員会議の中でも話をし、ホールに誰か必ず一人はいるように職員間で連携し、見守りの意識を強化するなど工夫にて「身体拘束をしないケア」に取り組んでいる。身体拘束マニュアルも職員が直ぐに閲覧できるようになっており、職員の周知徹底を図っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>内外研修で職員の意識を高め、スタッフ間で不適切な行為を見逃さず、注意し合える環境作りに努めている。今年度身体拘束予防・虐待廃止マニュアルを作成し各ユニットに掲示している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>主に管理者やチーフを通して、成年後見制度等必要と思われる利用者に関しては、早めに話をするように心がけている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入所時には十分な説明を行い、理解・納得された上で契約していただいている。改定等の際には、その都度文書と口頭にて説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に意見箱を設置しているが、入っている事はほとんどないので、面会時等に意見や相談をうけた際には管理職に報告し、反映させるようにしている。運営推進会議や家族会でも意見・要望は聞いている。</p>	<p>主に面会時に要望を聞いており、家族からの意見をきっかけに、保険証のお渡し書を作成する事や、掃除する箇所を工夫することがあった。また、職員は担当制で、日頃から家族と密に連携をとっており、意見、要望を言いやすい環境となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月位1回の職員会議やグループホーム会議では、皆が平等に意見が言えるよう1人ずつ発言してもらうようにしている。実際に職員の意見により、就業規則の一部が改善された。	定期的な会議や日頃の業務の中から、職員の意見を聞くようにしており、必要に応じて個人面談も行っている。職員の意見から年数に応じた日数でリフレッシュ休暇が導入された例などがあり、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の欠勤時にはホーム長にも連絡するよう指導している。そうすることで勤務状況の把握と個々の生活状況に応じて、勤務時間等も融通配慮されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人・中堅・リーダー等それぞれのレベルに応じた内外の研修を受けている。新人は担当職員によるOJTの研修をおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	昨年度初めての試みである他施設との交換実習をおこなった。そこでの学びや情報は今後のサービスに活かしたい。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前の面会で少しでも信頼関係を築き、不安をなく入所していただくようにしている。入所直後は特に注意深くご本人に寄り添うことを意識し、要望など傾聴し安心しいただけるケアプランをたてる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始時にはご家族の要望等聞き職員間で情報の共有は行うが、最初から全ては聞けないし話されないのので、面会時や電話等でお話することで徐々に信頼関係を築いていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用開始時のご本人やご家族の要望に対し当面の暫定ケアプランを立て、状況を見ながらプランの変更をおこなう。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の出来る事を見極め、ケアプランに組み込むことで、職員が同じ対応できるようにしている。本人はそれを自分の仕事として生きがいを持って行っている。(例 朝の掃除や食事の盛り付け等)職員もその都度感謝の言葉をかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	受診対応等出来る事は極力お願いしている。面会時は食事介助をさせていただいたり職員も一緒に話をしたりして、できるだけご家族も巻き込んで共に利用者支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の協力で馴染みの美容院に続けて通われたり、地域の敬老会への参加等支援している。またお誕生日には馴染みの場所や人に会えるよう担当者が工夫している。ご近所や友人知人の面会もよくある。	アセスメントシートの中に「なじみの場所、なじみの人」など記入する欄もあり、利用者の意向を把握している。誕生日の際には本人の希望を聞き、自宅での誕生日会に同行したり、墓参りに行った例もある。家族による外出や外泊、近所の人との面会もあり、馴染みの人との関係が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員は、テーブルの席や利用者同士の相性に注意して独りにならないよう、また利用者同士のトラブルがおきないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後の利用者の状況把握はなかなか難しいが、ご家族とのハガキのやりとりが続いているケースもある。亡くなられた利用者のご家族がボランティアに来られたりしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員サイドのペースを押し付けず、個々のペースや体調・表情を見ながら起床や食事・おやつの時間などをズラしたりすることもある。入眠前の足浴や起床時の手浴を希望される方には対応している。いつでも好きな歌を楽しめるように支援している。	生活歴や日頃の生活の中で利用者の思いを把握し、個々のリズムに合わせて食事、入浴などの時間を柔軟に決めたり、個別対応を行っている。本人の意向により、部屋の鍵を持っていただいたり、買い物に行く等、個々に応じた支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	担当職員が情報提供や本人ご家族と話し、生活歴等を把握し、ケアプランに反映させる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1人ひとりの体力等考慮し出来る事をしていただいたり、休養をとったりしている。状態の変化があれば申し送って職員全員で情報を共有するよう努めている。緊急性のある場合は、ラインワークスで情報発信する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月のグループホーム会議で、個々のカンファレンスをおこない、ケース担当を中心に3か月に1度プランのモニタリング見直しをしている。またご家族の面会時にはできるだけ要望や意見を聞くようにしている。</p>	<p>介護計画はケース担当が中心となり、モニタリングを実施し、家族、本人の意向も確認しながら作成している。計画実施後は、具体的内容を日々チェックしていき、次のモニタリング、アセスメントにつなげている。現状に即した内容により、立ち上がり、トイレでの動作が向上する等、本人ができることが増えている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々のケア記録の中に、介護計画に関するチェック欄があるので、合わせてモニタリングも行えるようになっており、次の計画につなげている。 新しい情報や注意点等については、ラインワークス等での早い共有ができるよう導入を図った。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>家族との話し合いを大切にし、その時々状況などには臨機応変に対応できるようにしている。 例) 看取り時の家族の宿泊や居場所作り 家族の居室での宿泊 外出、通院のための事業所車両の貸出</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ボランティアや法話会等で住み慣れた地域の方々に来所してもらい関係性の継続と、住み慣れた地域での買い物や受診等を行っている。また誰でも気軽に来れる雰囲気作りを大切にしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>できるかぎり入居前のかかりつけ医に受診しており、往診に来ていただける開業医もある。契約書上は基本として家族対応となっているが、遠方等で事業所が対応するケースが多い。 また、協力病院吉田総合病院がかかりつけになっているケースでは、担当医の転勤があり、困ることが多く、開業医の先生に代わっていただくケースもある。</p>	<p>本人、家族の希望により、かかりつけ医を決めており、入居前の病院に係っているケースも多い。往診していただける病院もあるが、受診の場合は家族対応だけでなく、事業所で同行、付き添いの支援をすることもある。医療機関、家族と密に連携をとり健康管理を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>週1回の訪問看護とは変化等の情報共有に努めている。変化時には電話連絡が取れる体制となっている。 また、併設の小規模多機能の看護師にも相談、協力してもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>協力病院に入院した際、職員は家族と同等の対応をいただける関係はできている。 入院中は定期的に面会し病状の情報収集に努め、退院が近づくと家族と一緒に病院でカンファレンスを行う。退院後も医療的処置が必要なケースなど受け入れが難しい場合もある。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入所時の重要事項の説明の中で重度化に向けた方針等の説明も合わせて行っている。看取りを希望される家族とは早めにカンファレンスを行い、意思の確認と今後の方針等を確認している。終末期には主治医との連携をとりながら、職員も情報を共有しチーム一丸で支援している。</p>	<p>事業所で看取りを希望される家族の方が多く、カンファレンスを行い、終末期に向けて方針を決めている。カンファレンスの内容は記録にとり、全職員が周知徹底し、その利用者に応じた対応、ケアを行っている。かかりつけ医、家族、訪問看護と連携も図り、チームで支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>最近なかなか急変等の対応の訓練はできていないのが現状。経験の浅い職員は特に夜勤時の急変に不安を抱えている。実際に急変があった時は看護師や先輩職員の指示を仰ぎながら対応し、その都度振り返りは行うようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防訓練は年2回行っている。訓練時には入職間もない職員が対応できるようにして職員誰もが一度は体験するようにしている。昨年度からは水害時を想定して、2階への利用者避難の方法も検討している。 地域との協力体制による、防災面での強化が問題である。</p>	<p>水害時を想定し、リュックに衣類、オムツを詰める練習や利用者実際にカップラーメンを食べてもらい、その際に必要な物について意見をあげる等の取り組みを行っている。避難訓練も年2回実施し、職員に周知徹底し、非常時に迅速に行動できる体制を整えている。</p>	<p>災害時に近所の家に避難する約束は交わされているが、避難訓練に地域の方の参加がなく、災害時の応援体制も含め、今後地域との協力体制をより強固にされることを期待します。</p>



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	トイレ誘導お声掛けや、入室時のノックなどは気をつけている。入居間もない方や信頼関係の築けていない段階では、特に丁寧な声かけをしている。信頼関係ができると、親しみを込めてその方の話がしやすい声かけをすることもあがるが、自尊心を傷つけないように注意している。	利用者と距離を置かない様に気を付けながら、丁寧な言葉かけや対応を行っている。トイレ誘導は他利用者に聞こえないよう声掛けするなど、羞恥心に配慮した対応を行っている。人権についての研修も行い、日頃から利用者との関わりで気づいたことは、職員間で言い合える環境が整っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	なるべく利用者の思いや希望に聞くように心がけてはいる。思いを上手く話せない方には、自己決定できるような対応やケアを心がけている。 例 どちらがいいですかと、本人に選択してもらう。 耳の遠い方には筆談カードを使用して納得決定してもらう。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の生活の流れはあるが、利用者の体調や状態に合わせて、その人のペースで生活できるよう支援している。 例 起床を遅らす。 食事やおやつも状態に応じて時間をズラす。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一部の方は入居前の美容院に出かけたり、外出時に化粧をされたりするが、ほとんどの方はおしゃれされることは少ない。朝の整髪、髭剃りや食事の食べこぼし等の衣類の汚れはこまめに着替えるなど日常的な最低限の身だしなみは行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や片付けができる方は役割となっているが、特定の人だけになってきているため、もっと一人一人の力を伸ばすように支援していきたい。 マイカップやマイ箸・茶碗など使用し、盛り付けや器なども時には工夫している。 例 ワンプレート	利用者に意見を聞き献立を決めたり、朝食は好みにより、ご飯かパンかを選べるようになってきている。職員が利用者と一緒に収穫した野菜が食卓にできることや、皮むき、盛り付けなどを役割として行っている。テラスに鉄板を出して焼肉、焼きそばを作ったり、正月はブリを捌いたり、見た目も楽しめるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の摂取量をチェックし、変化を共有するようにしている。合わせて本人が摂取しやすい形態の物を提供し栄養バランスに注意している。 また退院前には病院のST、家族と嚥下に関するカンファレンスにより摂取しやすい形態、姿勢等の共有に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科医に助言をもらいながら、個に合わせた口腔ケアは行っている。自分でできる方の口腔ケアを気をつけている。 最近では歯科医の往診が増えてきており、助けられている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	全介助の方でも一日に一回はトイレに座って頂くようなプランを立て実施したり、本人に合ったタイムリーな誘導に心がけている。 また、パット等の使用を減らすように誘導時間も計らっている。	排泄表にて個々の排泄パターンを把握し、本人の能力を活かし排泄の支援を行っている。入居後オムツが外れた方やリハビリパンツから布パットになった例もあり、本人の意向を尊重しながら自立に向け取り組みを行っている。各居室にトイレの設置があり、代表者の排泄への思いも開設時より強く込められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日10時にヨーグルトやヤクルトを提供し、自然排便を促している。合わせて排泄シートにより排便のチェックをおこない、必要に応じ下剤を服用することで便秘しないように気をつけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	今年6月に新しくミスト浴が導入され、利用者にも「気持ちいい」と好評。 できるだけ本人の希望に合わせた入浴を実施するようにしているが、最近では人手不足で職員の都合になってしまうのが現状。足浴や手浴など希望により提供することで補っている。	本人の意向、状態に合わせてミスト浴、個浴に入っている。入浴も無理強いないせず、本人の意向に合わせてその日の午前中が難しければ、午後や翌日に変更するなど柔軟に対応している。季節によっては「だいたい湯」をするなど入浴が楽しむことができる支援を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	本人の希望や状態により、休ん でもらう時間は個人差があり。 その方のペースに合わせて入眠 のタイミングを合わせている。 日中でも昼寝など本人が休 みたいときに自室で休める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。	誤薬や飲み忘れ等ない様に、 服薬に関してはセットする人、 チェックする人、与薬する人と 3段階のチェック体制を取っ ている。 日頃の利用者の状態を看なが ら、受診時には医師に減薬の 提案も行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、 嗜好品、楽しみごと、気分転 換等の支援をしている。	役割があることでやりがいを持 てる方にはプランに沿って支 援している。利用者同士の助 け合いも大切にし、あまり職 員が率先しないように見守る ようにしている。 好みについては日々の話の中 や家族から情報を集め、提供 するようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支 援している。	外出希望されたときにタイム リーにできないこともあるが、 抑制はせず時間をずらしたり して行っている。 誕生日には本人の希望する ところ職員と一緒に出かけて いる。 例 食事、温泉、墓参り、地域 の行事や祭り、家族内での 祝い事等	利用者の誕生日には行きたい ところの希望を聞き、個別 対応で温泉、墓掃除等に行 った例がある。日頃の散歩、 買い物だけでなく、庭園、 菖蒲園、野球、サッカー観 戦等などでの外出がある。 家族や地域の人に協力して もらっての外出もあり、日 々利用者が楽しく過ごせる ように考えられている。	
50		○お金の所持や使うことの支 援 職員は、本人がお金を持つこ との大切さを理解しており、 一人ひとりの希望や力に応 じて、お金を所持したり使 えるように支援している。	現在金銭を自己管理されて いる方はおられない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご家族とも相談しながら、希望により対応している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>できるだけ季節感のある花を生けて飾るようにしているが、もう少し整理整頓すべきと感じている。全ての方に着心地良い環境とはなっていないと感じている。</p>	<p>2ヶ月に1回生け花教室があり、その時のものや庭で摘んだ花を飾っている。壁には利用者の作った壁面等作品を飾るなど、明るい雰囲気環境である。テーブル、ソファの配置など居心地の良い空間になるように工夫されている。窓からは外の景色が見え、四季折々を感じることができる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>お茶の時間や食事の時は共同のホールで過ごされるが、一人の時間を過ごしたい時は自分の部屋で寛いでおられる。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>なじみの空間作りで、使い慣れた物を持参頂くようお願いするが、新品を持ってこられる方が多いような気がする。ご家族との写真は部屋に貼っておられる方が多い。長い時間を自室で過ごされる方は、その方の好みで色々と工夫されている。</p>	<p>自宅で使い慣れた物の持ち込みは自由で、タンスや机、神楽面、木彫りの像など持ってこられた事例がある。在宅で馴染みの物があることで、自宅同様に居心地よく過ごすことができるように工夫している。居室にはトイレ、洗面、鍵もありプライバシー空間が守られ安心して過ごせる構造となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下には手すりがあり、できるだけ物を置かずに歩きやすい環境にしている。各自の部屋はその人に合わせて手すりを後付けしたり、椅子などを利用して手すり代りにし、できるだけ安全に自分で動ける環境にしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ケアホーム匠

作成日 平成30年11月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	水害時の避難避難場所の判断。 匠の2階に避難した際の食料の備蓄や電源の確保。	利用者や職員全員が安全かつ迅速に避難出来、当面の生活が送れるような準備、訓練を行う。	年2回の防災訓練時2階への避難訓練を実際に行う。	30年度中
2		〃	〃	食料の備蓄の量や備蓄場所を決める。	1年以内
3		〃	〃	停電時の電源として電気自動車の購入等も検討する。	未定
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。